ＥＳＤＧｓ通信20200730　手島利夫です。

本日のテーマは「ズロースとサルマタの教育課程論・カリ・マネの本質」

長雨、そして豪雨のニュースが続きます。このままでは稲の生育や野菜の収

穫にも大きな影響が出そうですね。子どもたちの成長ぶりはいかがでしょうか。

もう一息で夏休みを迎えるところでしょうか。皆さん頑張りましたね。

　昨日、神奈川県の校長先生から届いたメールでは、「教職員の夏休みの宿題

は、手島先生の朝日新聞と朝日小学生新聞の動画を見ることです。」となって

いましたが、「え～、そんな使い方があるのか。あまりご負担おかけしたら申し

訳ないなぁ。」と恐縮したところです。私の動画を見るより、山藤旅聞さんや松

倉紗野香さんなどの若手の話の方が心にしみると思いますよ。

お二人の動画も、<https://www.esd-tejima.com/>　のトップページのアイコンからご覧いただけます。

　ズロースという名の教育目標の話です

さて、この4月より学習指導要領が完全実施となり、「持続可能な社会の担

い手」の育成に向けた教育課程の明確化が掲げられています。また総則では、

「児童・生徒に生きる力を育む」ことを目指して主体的・対話的で深い学びに

向けた授業改善や、教科等横断的な視点でカリキュラム・マネジメントに努め

ることが求められています。

しかし、各学校の教育目標やそれに続く教育課程の文言に変化はあるのでし

ょうか。

「今度の指導要領も、内容的には以前の学習指導要領とあまり変わっていな

いよ。」と、平然と明治から昭和時代に掲げた教育目標「知・徳・体」や「よ

く考える子」などを掲げ続けている学校も多々見られます。

これらは、明らかに時代遅れです。単なる「知」識を詰め込んだだけでは、

実際の社会や生活で生きて働く知識や技能にはなりません。また、教師に言わ

れたことを「よく考える子」では、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・

表現力は育ちません。ましてや、学んだことを人生や社会に生かそうとする学

びに向かう力、人間性などが育つはずもありません。教育目標を見ればその学

校の教育観や、その程度がはっきりと見えるのです。

「教育目標は、やたらに変えられない。」と思っている校長先生方も多いかと

思います。私もそうでした。でも、時代が大きく変わり、求められる人間像が

大きく変わっているのに「うちは老舗です。」と古臭い看板を掲げ、毛糸のズロ

ースやサルマタを並べていたって誰も喜んで買いには来ませんよ。（すみませ

ん。我が家は昔、衣料品を扱っているお店でしたので。つまり、「知・徳・体」

なんて聞くと、ズロース（女性ものの下着）やサルマタ（男性の下着）の時代

を連想してしまうのです。「よく考える子」なんて、ちょうどブリーフの頃と重

なりますね。私はブリーフで育ったので、当時の成績は「ちょっとだけ考える

子」でした。

新型コロナのおかげでリモート学習でも学べることが分かり、「学校に行か

なくたって勉強はどこでもできる」ことが分かっちゃったのです。安くていい

品物が安全に手に入るなら決められた店に並ぶ必要も義理もありません。むし

ろ、通販で十分ということです。

　学校がいつまでもサルマタの押し売り（知識・技能の詰込み教育がサルマタ

に見えるのです）をしていると、本当にお客が離れていきますよ。看板も架け

替え、品揃えも売り方も変えなくてはなりません。学習指導要領では、それを

やろうと言っているのです。下着だけでなく「生活をコーディネイトして売る

工夫をするのも、ありですよ。」とも言っています。何のことだか分かります

か？

そして、その市における全ての学校の教育課程（スクールプランなど）の中

に、改訂のキーワード（持続可能な社会の創り手、生きる力、カリキュラム・

マネジメント、主体的・対話的で深い学びへの授業改善、思考力・判断力・表

現力、社会に開かれた教育課程等）がどのように書き込まれているのか、いないのかそれぞれをパーセントで出せば、その市区町村の学校教育に対する指導力が丸見えになるのです。そういえば昔、「パンツ―、丸見え！」という歌がありましたね。

教育行政の方々は、我が市区町村の学校がズロースやサルマタでないか、調

べてみるといいですね。文部科学省の皆さんは全国サルマタ調査をしてみてはいかがでしょうか。

「学習指導要領」がもし人間と話せたら

つまり、学習指導要領に書かれた「持続可能な社会の担い手の育成に向け

た教育課程の明確化」とは、「各学校は教育目標から見直し、どのような子ども

たちをどのように育てなければならないのか、この際しっかり考え直しなさ

い。」という意味なのですね。その際、総合的な学習の時間の目標との関連を

図るようにしましょうとも明記されています。どういうことでしょうね。

「学習指導要領」がもし人間と話せたら、「古い教育目標はとっとと変えて

ください！あなたが教育改革をするのを私は応援しているんですよ。校長先生、あなた以外には、今の学校の古ぼけた教育目標を変えられる人はいませんよ！」というでしょうね。地域を愛し、その伝統を重んじるのは大切です。

でも、時代遅れでカビの生えた教育目標を変える勇気をもちましょう。そし

て、教育の中身やそこに育つ子どもたちの姿で地域や保護者を納得させ、多く

の協力をも得られるような教育実践を進めていきましょう。「それが校長の仕

事だ！」と思いませんか。

**カリキュラム・マネジメントの話です。**

学習指導要領改訂の理念が各中学校の教育課程にどのくらい浸透している

のだろうかと、ある市の全ての中学校の教育課程を調べてみました。すると、「主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善」の記述があった学校は５７％ありました。しかし「カリキュラム・マネジメント」の記載は１７％しかありませんでした。

中学校は学習指導要領の全面実施前年なので、低いのかと思い、同市の全小

学校でも同様に調べてみましたが、２８％と８％、という驚くほど低い数値でした。でも東京都内のある市の小学校では、カリキュラム・マネジメントについての記述は、なんと、１．４％しか書かれていませんでした。

あれだけ「カリ・マネだ～！」と騒がれていたのに、取り組む意味や魅力が

ほとんど伝わっていないということであり、来年度になったからと言って教育課程への記述が急増することもなさそうです。では、本当に意味のないもの

なのでしょうか。

カリキュラム・マネジメントは「各学校においては、児童・生徒や学校、地

域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教

科等横断的な視点で組み立てていくこと、教育課程の実施状況を評価して改善

を図っていくこと、教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保すると

ともにその改善を図っていくことなどを通して、教育課程に基づき組織的かつ

計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと（以下「カリキュラム・マネジメント」という。）に努めるものとする。（総則第１の４）と示されています。

ですから、従来の学校教育では不十分であった「教育内容等を教科等横断的

な視点で組み立てることをきちんとやりなさい。そのことで、教育の目的や目標を達成しなさい。」ということを示しているのです。（下線は筆者による）

ではなぜ、教科横断的な学習が必要なのでしょうか。私たちの世界を持続不

可能な状況に追い込むような困難な問題、例えば地球温暖化を例に考えてみましょう。

地球の温暖化はＣＯ２排出量の増加によるＣＯ2濃度の上昇が原因と言われ

ています。でも理科や化学だけ学んでいても、温暖化を止めることはできません。経済や産業の課題でもあります。また代替エネルギー開発の課題でもありますし、海洋も温暖化すれば異常気象の問題にも、あるいは感染症の拡大にもつながっていきます。

このように国際化・情報化の進む世界では、一つの問題は様々な分野に広がり、問題を解決するためには、問題を多様な視点から分析的に捉え、多様な英知を集めた総合的な対策が求められるのが今の世界なのです。

今の世界、そしてこれからの世界では、問題にいち早く気づく問題発見能力

だけでなく、ＳＤＧｓの視点のように幅広い視野から分析し、思考し、必要な情報を収集し、的確な判断に活用する能力や、多様な人々と協働するための表現力や実践力の育成が求められています。

知識はもっているのに、人に言われるまで自ら動けないような人間は、認め

られない世界なのです。ですから、日常的な学習活動においても、具体的な事実や問題点を書き出し、ウェブ図等の思考ツールを活用して学ぶべき課題を明確化し、調べ・まとめ・共有し・発信し、実践を相互に評価し合うといった、主体的・対話案で的で、自己変容を伴う深い学びのスタイルがどうしても必要なのです。

つまり、ＳＤＧｓを踏まえた教育、特に教科等横断的な視点に立ったカリキ

ュラム・マネジメントは、生きる力を育む教育課程編成の要であり、学校教

育の再生をかけたチャレンジなのです。

どこかの学者さんが本で書いているような「人的あるいは物的な体制の確保

といった業務の効率化」などとは、全く次元の異なる重要な取り組みなので

す。

確かにヒト・モノ・金といった体制がないと動かない面もありますが、それ

だけでカリキュラムをマネジメントできるわけではないのです。あくまでも「教育の重要課題」なのです

自分で教科等横断的な学習を創り出し、その成果を子どもの学ぶ価値ある姿

として育てたことのない者が、断片的な文言だけで「業務の効率化」などと

くだらない解説をするから、だれも振り向かない無意味な言葉にされてしまう

のです。

それでも教科等横断的な学びの重要性は、約20年前の学習指導要領改（1998

年公示、2002年から実施））当時から、全く変わっていません。教科等横断的

に学びを作るのではないのです。問題が教科等を越えて広がって行っているの

です。だから、問題解決的な指導を考えると、教科等横断的にならざるを得な

いのです。

学習指導要領では、このような時代の課題に向き合い、学校教育の改革を進

めることを各地の教育委員会や校長に向けて強く求めているのです。

さあ、もうすぐ夏休みです。限られた期間、制約の多い日々ではありますが、

何か、楽しいこと、有意義なことを見つけて気持ちだけでも大いにリフレッシ

ュしましょう。子どもたちには、

「いつもの夏休みまで、ずいぶん頑張りましたね。夏休みが明けたら、覚え

る勉強ばかりでなく、自分たちで体験したり調べたりする勉強も取り入れるよ

うに工夫するから、また楽しく勉強しようね」

などと、新たな学びに期待をもって登校できるような声かけをしてほしいも

のです。また実際に学校の教育は、詰め込むだけでない、「学びのあるところ」

に向かって、発展してほしいものと思っています。

乱文にて失礼しました。今後ともご指導をよろしくお願いいたします。

　　　　　　　　　　　「ＥＳＤ・ＳＤＧｓを推進する手島利夫の研究室」手島利夫

　　　　　　　　　　　　URL=https://www.esd-tejima.com/

　　　　　　　　　　　☏＝ 03-3633-1639　 090-9399-0891

　　　　　　　　　　　　Ｍａｉｌ＝contact@esdtejima.com